

平成23年度 教育行政評価シート（自己評価）NO.5

主要事業名	鹿嶋市の歴史・文化・伝統の普及と発信	作成日	H24.5.28
		担当 部名	教育委員会
		担当 課名	教育総務課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	3	郷土理解教育と国際理解教育
体系項目	1	郷土理解教育の推進
個別施策	①	地域資源や地域人材の活用

2 事業概要（Plan）

戦略目標	鹿嶋市の歴史・文化・伝統の普及と発信 郷土教育の振興を図るために、地域にある資源の利活用を積極的に進めていく。その戦略としてはまなす公園内にある郷土資料館の活性化や門前町の空き店舗を活用して鹿嶋市内の歴史や文化を紹介するミニ博物館の管理運営など、鹿嶋市の情報発信基地として郷土理解に向けた様々な企画やイベントも実施していく。
------	---

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。 ①行政(教育委員会・商工観光課)と市民(まちづくりセンターや大町商店会)の協働事業として実施。 ②まちづくりセンターや大町商店会が自主的・極的に企画運営が出来るよう行政(教委)のバックアップが必要。かるたにちなんだウオーキングや講座などソフト面での支援を行う。 ③観光客ばかりでなく学校や一般市民への周知活動の推進。
--------	--

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。		
	対象	一般市民・観光客	規模

予算科目コード	会計	01	款	10	項	5	目	2	事業名	ミニ博物館運営委託						
全体計画										22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
										(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	
投入コスト	事業経費	ミニ博物館委託費									9,082	6,020	6,175	6,159	6,159	
		合計								0	9,082	6,020	6,175	6,159	6,159	
		財源内訳	国県支出金									9,082	0	0	0	0
			地方債									0	0	0	0	0
その他(参加者負担金)									0	0	0	0	0			
一般財源									0	6,020	6,175	6,159	6,159			
従事職員数	正規職員									0	0	0	0	0		
	その他職員									6	3	3	3	3		

根拠法令	文化財保護法
------	--------

事業の性質	法定受託事務	自治事務(義務)	自治事務(任意)	○	市民サービス	○	管理経費
事業期間	単年度	○	年度繰返し	○	期間限定	平成23年度から	平成27年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。 市の玄関口である鹿島神宮門前町の活性化と観光客や一般市民への鹿嶋市の歴史文化の周知活動を実施しているミニ博物館事業やどきどきセンター等の施設は鹿嶋市のイメージアップにつながり、市の情報発信基地として、期待される。また、まなす郷土資料館は開館当初のままであるが、鹿嶋市内に存在する歴史的な文化財等、地域の資源の利活用をしていく上で、昨今の宇宙ブームのプラネタリウムとともに活用できる格好の施設である。また、鹿嶋の地域の歴史的財産である文化財や伝統芸能などを盛り込んでいる郷土かるたを大会だけでなくさらに充実させ、歴史ウオーキングや歴史講座を開催して郷土教育の振興を図りたい。
--------------------------	--

3 実績及び事業評価 (Check)

視点	評価項目	評価指標	評価指標根拠	判定
予算執行	【①計画性】 計画的な事業実施が行われているか？ (計画的な予算執行、事業実施計画などがあるか)	A: 対計画実施率90%以上 B: 対計画実施率80%~90%未満 C: 対計画実施率80%未満	緊急雇用創出事業等の目的を把握して事業終了後も市事業として計画的な事業へつなげている。	A
	【②コスト削減】事業運営上、コスト削減の余地はあるか？ (民間委託、指定管理、他事業との統廃合、一般入札の導入、IT化、長期継続契約等)	A: コスト上昇率0% B: コスト上昇率5%未満 C: コスト上昇率10%以上	事業の性格上費用負担と効果は比例しない部分もあるが方法次第でコストの削減は可能、効果は上がるものと判断される。	B
対象者	【③事前のニーズ把握】 事業策定は、児童・生徒・保護者・市民・事業実施主体者(学校現場)等のニーズを把握しているか？	A: 把握して事業に反映させている。 B: 把握しているも事業に反映せず。 C: 把握していない。	定期的に調整会議を開き意見を反映させている。	B
	【④事後のニーズ把握】 事業実施後、児童生徒・保護者・市民・事業実施主体者(学校現場)からヒヤリングを定期的に行い事業実施してきたか？	A: 実施できた。 B: 実施したがヒヤリング実施せず。 C: 実施出来なかった。	アンケートや意見を聞き事業に反映させている。	B
事業実施過程	【⑤現状の把握】 もし、今回の具体的施策を行わなかった場合、どのようなマイナスが想定されるか？具体的施策が該当事業目的達成にとって適切であったか？	A: 成果があり、施策も適切であった。 B: 成果はあったが施策の検討要。 C: 施設が活用されず効果がなかった。	事業実施そのものが話題になり、期待も高いので継続していく事が望ましい。	B
	【⑥関係機関との連携】 予定した関係機関との連携は的確に行われたか？適切な関係機関との連携計画は予定通り進んだか？	A: 行われた。 B: 連携は行われたが進まなかった。 C: 行われなかった。	それぞれの抱えている課題に共通性があり、連携がうまくいけば事業の性格上効果は上がる判断される。	A
	【⑦前年度からの改善】 前年度からの改善策を実施したか？(昨年度の自己評価シートによる改善策)	A: 改善策を実施して出来た。 B: 改善策を実施しが出来なかった。 C: 改善策を実施しなかった。	新規事業として開始されたばかりで効果や成果については未知の部分がある。改善策の実施は今後の事業の展開次第である。	C
	【⑧他市町村事例と当市当該事業成果比較】 ベンチマークとなる他市の優れた成果との比較により、具体的比較可能事例による評価比較を行う。どの市町村のどの施策と比較する旨を明確にする。	A: 他と比較でき適正な評価がされた。 B: 比較したが適正な評価得られず。 C: 比較せず評価できなかった。	他市の興味ある事例を取り入れ、参考にして事業を展開している。	B
	【⑨評価実施による日常業務サイクル見直し】 自己評価並びに評価委員会での審議結果を日常業務実施改善に役立つ新たなシステム構築に繋がっているか？	A: つながっている。 B: 評価をしているが繋がっていない。 C: つながっていない。	事業の成果を客観的に評価する機会がなく、内部の反省、課題の抽出のみに終始している。	B
育成	【⑩研修】 事業を効果的に行うために、研修を行っているか？(研修時間、組織内の研修受講割合など)	A: 専門職育成研修に参加 B: 業務関連の研修に参加 C: 研修参加なし	効果を高めるために研修が必要であるが、事業の推進のみで時間が取れず予定していた研修が出来なかった。	C

4 自己評価結果 (Action)

総合評価	点数	72.0	A: 合計点が80点以上 B: 合計点が79点~65点 C: 合計点が64点以下	総合評価結果	B
本評価に基づく事業の改善策	実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 行政が予算を確保。各地区のカルタ大会は、まちづくりセンターや文化財愛護協会と協力して事業を実施、ミニ博物館は大町商店会と、郷土資料館はみどり推進課と施設によって所管が異なる。かるた大会やウオーキングなど長く実施してきたが、温度差があり一部の人や機関に負担が大きいのも現状である。			
	継続・休止の理由	継続	理由	郷土カルタの大会は伝統を伝えるためにも継続していく事こそ必要な事業であるし、ミニ博物館開設事業は今後に繋がる事業として、門前町の活性化事業に効果があることも認められたので、今後も継続していく事が必要とされたため。	
	課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 ミニ博物館や郷土資料館は観光地や歴史のまちとしての鹿嶋をアピール・情報発信していく施設として有効であるが、管理運営に様々な課題があり、運営母体は充実した組織が望まれる。地域の資源活用についても教育委員会だけで進めることは難しく、生涯学習課や商工観光課等と連携して周知活動も含めて進めていく事が必要。			
	改善策	課題に対する改善策を、期限や具体的な数値などを記入してください。 博物館の代替の施設でもあり、鹿嶋の歴史や文化の情報発信をしていく施設として管理運営団体を検討していく。組織や運営委員会の充実。施設の改修など展示資料の充実も必要である。			
	総合評価	上記の4視点にある各項目の判定により、総合評価を行う。100点満点中、80点以上をA、79点~65点をB、64点以下をCとする。			

平成23年度 教育行政評価シート（自己評価）NO.6

主要事業名	英語活動の充実	作成日	H24.5.25
		担当部名	教育委員会
		担当課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	3	郷土理解教育と国際理解教育の推進
体系項目	(2)	国際理解教育の推進
個別施策	①	小中学校での英語教育の充実

2 事業概要（Plan）

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。
	英語を母国語とする英語指導助手を各小中学校に配置し、日常生活で自らすすんで英語表現ができることを目標として、小学校1年生及び2年生は英語に親しむことを重点に、小学校3年生及び4年生は、英語表現に慣れることを重点に、小学校5年生及び6年生は、英語による基本的なコミュニケーション能力を身につけることを重点にしています。 中学生は、小学校で慣れ親しんだ会話中心の英語教育から、ライティング力やリーディング力を含む総合的な英語力向上に努めます。

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。
	①英語指導助手と児童・生徒が英語を使ってコミュニケーションしようとする場の提供
	②英語指導助手との交流による児童・生徒の英会話能力の積極的引き出し
	③英語指導助手との交流による異文化への関心と国際理解の深まり ④学校教職員に対する英語研修や効果的な授業実践に関する支援

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。		
	対象	小学生及び中学生	規模

H23教育行政運営方針主要事業名		英語指導事業経費					
投入コスト	全体計画	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)
事業経費	指導業務委託（小学校）	63,635	63,434	63,223	63,223	63,223	63,223
	うち人件費	47,528	47,573	47,552	47,552	47,552	47,552
	諸経費	5,386	5,469	5,089	5,089	5,089	5,089
	運営費	10,039	9,652	10,036	10,036	10,036	10,036
	研修費	682	740	546	546	546	546
	英語教材業務委託（小学校）	15,840	15,606	15,506	15,506	15,506	15,506
	指導助手委託（中学校）	21,546	21,388	21,325	21,325	21,325	21,325
	合計	101,021	100,428	100,054	100,054	100,054	100,054
財源内訳	国庫支出金						
	地方債						
	その他(参加者負担金) 一般財源	101,021	100,428	100,054	100,054	100,054	100,054
従事職員数	正規職員	2	2	2	2	2	2
	その他職員						

根拠法令	
------	--

事業の性質	法定受託事務	自治事務(義務)	○	自治事務(任意)	市民サービス	建設事業	○	管理経費	その他
事業期間	単年度	○	年度繰返し	期間限定	年度から			年度まで	

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。
	小学校学習指導要領には「指導計画の作成や授業の全体的なマネジメントについては、学級担任や外国語活動を専門に担当する教員が中心となって、外国語活動を進めることが大切であるが、授業の実施に当たっては、ネイティブ・スピーカーの活用にも努めるとともに、外国語が堪能な人々の協力を得るなど、指導体制を充実すること。」と明記しており、今では多くの自治体で英語指導助手による英語教育を取り入れています。 また、本市では、教育特区として小学校1年生から英語活動を実施し、英語によるコミュニケーション力の育成を図っています。さらに、中学校においても話す力・聞く力を重点化した指導を展開し、「コミュニケーション英語」の指導カリキュラムを作成し取り組んでいます。

3 実績及び事業評価 (Check)

視点	評価項目	評価指標	評価指標根拠	判定
予算執行	【①計画性】 計画的な事業実施が行われているか？ (計画的な予算執行、事業実施計画などがあるか)	A：対計画実施率90%以上 B：対計画実施率80%～90%未満 C：対計画実施率80%未満	学校現場・教育委員会・受託者が集まり、教育効果の高い事業計画を立て、PDCAサイクルで年度ごとに見直しながら進めています。	A
	【②コスト削減】事業運営上、コスト削減の余地はあるか？ (民間委託、指定管理、他事業との統廃合、一般入札の導入、IT化、長期継続契約等)	A：コスト削減率10%以上 B：コスト削減率10%未満 C：コスト削減率 0%	委託内容等の細部を精査し、コスト削減を行いました。	B
対象者	【③事前のニーズ把握】 事業策定は、児童・生徒・保護者・市民・事業実施主体者（学校現場）等のニーズを把握しているか？	A：肯定評価率80%以上 B：肯定評価率80%～60% C：肯定評価率60%～30% D：肯定評価率30%未満	事業の導入により英語教育がうまくいっていると答えた教職員は全体の96%。また英語教育に不安がないと答えた保護者は全体の73%と、本市の英語教育の必要性が高まっています。	A
	【④事後のニーズ把握】 事業実施後、児童生徒・保護者・市民・事業実施主体者（学校現場）からヒヤリングを定期的に行い事業実施してきたか？	A：肯定評価率80%以上 B：肯定評価率80%～60% C：肯定評価率60%～30% D：肯定評価率30%未満	事後の打合せを定期的に行い、ニーズ把握は行っている。何か改善点など必要なことがあれば、反映できる体制にある。	A
事業実施過程	【⑤現状の把握】 もし、今回の具体的施策を行わなかった場合、どのようなマイナスが想定されるか？具体的施策が該当事業目的達成にとって適切であったか？	A：具体的施策が項目達成に必要な B：具体的施策の一部は不適切 C：具体的施策の見直しが必要	英語に対する興味もあがっており、成績にも反映されている	A
	【⑥関係機関との連携】 予定した関係機関との連携は的確に行われたか？適切な関係機関との連携計画は予定通り進んだか？	A：連携計画達成率20%以上 B：連携計画達成率0%～20%未満 C：連携なし	英語を教える先生と、担任の先生を調整するマネージャーを通じ、連携をとり、定期的に打ち合わせもしている	A
	【⑦前年度からの改善】 前年度の改善策を実施したか？(昨年度の自己評価シートにある改善策)	A：前年度の改善率20%以上 B：前年度の改善率0%～20%未満 C：前年度から改善なし	小学校の英語と、中学校の英語の変わり目に対する教育方針を検討中	B
	【⑧他市町村事例と当市当該事業成果比較】 ベンチマークとなる他市の優れた成果との比較により、具体的比較可能事例による評価比較を行う。どの市町村のどの施策と比較する旨を明確にする。	A：他市町村より優れている B：他市町村並み C：他市町村より劣っている	英語はモデル指定校が公益法人の表彰を受けるなど教育手法は一定の成果を上げている。	A
	【⑨評価実施による日常業務サイクル見直し】 自己評価並びに評価委員会での審議結果を日常業務実施改善に役立つ新たなシステム構築に繋がっているか？	A：審議結果を業務実施に反映できている B：一部反映できている C：反映できていない	問題点など、抽出し反映する体制ができています	A
育成	【⑩研修】 事業を効果的に行うために、研修を行っているか？(研修時間、組織内の研修受講割合など)	A：対昨年度比研修時間、10%増 B：対昨年度比研修時間、5%増 C：対昨年度比研修時間、増減なし	英語教育の充実と指導力向上につながる適切な研修内容を精選し、教職員を対象に市独自の研修会等を開催している。	C

4 自己評価結果 (Action)

総合評価	上記の4視点にある各項目の判定により、総合評価を行う。100点満点中、80点以上をA、79点～65点をB、64点以下をCとする。	点数	89.0	A：合計点が80点以上 B：合計点が79点～65点 C：合計点が64点以下	総合評価結果	A
本評価に基づく事業の改善策	実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 教育研修会や学校訪問研修会、ビデオによる指導者研修等、教員の研修機会を多く実施したことにより、教員と英語指導助手による授業の質が高まり、教育効果が上がっています。また、指導主事による学校訪問を行い、校長・教頭・教務主任・英語主任との懇談から得た各校の課題の改善に努め、校内での英語教育研修体制の確立を支援しています。				
	継続・休止の理由	継続	理由	英語教育の体制は一定のかたちになってきており、学力向上の定着を図るためにも継続することが必要		
	課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 小学校英語活動で養ったコミュニケーション能力の素地を効果的に生かすために、小学校英語活動と中学校英語科の指導の連携を深めることが課題です。				
	改善策	課題に対する改善策を、期限や具体的な数値などを記入してください。 小学校英語活動と中学校英語科の指導の連携については、相互の指導内容・指導方法について理解を深めることが重要であるため、中学校区内の小・中学校間で相互に英語の授業参観を実施することとし、昨年度より参観回数を増やし相互の理解と情報収集の機会の充実を図ります。また、中学校英語推進協議会を開催し、小学校英語活動からのよりよい連携について具体策を検討していきます。				